ポケモン　ハイパーバトル

かえ子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ポケモン　ハイパーバトル

【Ｎコード】
Ｎ９３６４Ｚ

【作者名】
かえ子

【あらすじ】
バトル大会に初めて出場したミジュマル！
だが、知らないうちに闇はどんどん大きくなって・・・！？

プロローグ「バトル大会に向けて」（前書き）

キャラ崩壊＆残酷描写に
要注意！（ポケモンちゃんなのにいいの！？）

プロローグ「バトル大会に向けて」

ココはバトル村

年に一度、ココで開催される地区大会なのであ～る☆（ドンバトルと少し似てますが、何か？）

そして、バトル村の少し遠くの練習所で練習してるのがこのラッコポケモン、ミジュマルであった。

プロローグ

ミジュマル「今年は初出場だから、ゼ～ッタイ優勝するぞ～！」

？？？「ミジュマル、
相変わらず張り切ってるわね。」

モモンガポケモンのエモンガ（しかも色違いで♀）が練習場に現れたのだ。

ミジュマル「エモンガちゃん！」

エモンガ「初出場なんだから、あまりムリしないでね。
ムリしたら、せっかくの努力が水の泡になっちゃうんですもの。」

ミジュマル「あ、でもムリはしてないよ。
僕は大丈夫だから。」

エモンガ「去年もチャンピオンだった、あのピカチュウも出るのね。
」

ミジュマル「ピカチュウ・・・」

ミジュマルは去年、バトル村チャンピオンだった
ピカチュウのコトを考えた。

オーベム研究所では

???「オーベム博士、先程、バトル村でバトル大会が始まるのを
お聞きしましたが。」

テツアリポケモン、アイアントが、
ブレインポケモン、オーベムに向かって語り始めた。

オーベム「ナニー!?
じゃあ、手始めに、あのミジュマルと言った小僧をブッ潰せ!」

オーベムは命令した

アイアント「ハッ!」

ミジュマルは来る日も来る日も特訓を積み重ねた。（ムチャな特訓
じゃありません。）

熱戦前夜

ミジュマル「いよいよ明日だ!よーし!絶対優勝するぞ!」

エモンガ「ウフフ・・・ミジュマルったら張り切っちゃって。
バランス良く食べてね。」

ミジュマル「うん！
明日は開催されるバトル大会！
目指すはジャパニーズ1だー！」

エモンガ「おー！」

ミジュマルは目をメラメラさせた。

次の日

バトル大会　開催

ミジュマル「う～燃えてきた！

？？？「ミジュマルくん、」

ねっこポケモン、チュリネが
ミジュマルの前に立ちふさがった

チュリネ「こんなくだらない大会に参加しちゃダメ！」

ミジュマル「どうして！？」

チュリネ「あなたを暗殺するのは
アタシだから・・・（涙）ゴメンね・・・」

ミジュマルはどうなっちゃうのだろうか！？

続く…！

プロローグ「バトル大会に向けて」（後書き）

あまり、面白くないと思いますが
今後のミジュマルの活躍に期待してください！

第2話　暗殺宣言！？初戦の行方！（前書き）

ついに始まったバトル大会！
突然、チュリネがやってきて・・・

第2話　暗殺宣言！？初戦の行方！

回想シーン

チュリネ「アナタを暗殺するのは
アタシだから・・・（涙）ゴメンね・・・」

ミジュマル「何を言ってるんだよ！
まさか、まさか、冗談で言っているの！？」

チュリネ「違うわ。」

チュリネは冷たい顔をして横を向いた

ミジュマル「じゃあ、何で！？」

チュリネ「アナタと決勝で当たるの
楽しみにしてるわ。」

チュリネはそう言いながら、ミジュマルの所から
去る。

言い忘れたが、チュリネもバトル大会に参加
しているのだった。

実況「さ～、今年も始まりました。
バトル大会！実況はワタシ、ウィングが
お送りしますわ！」

青髪＋水色のメッシュで少しカールした垂れ下がりツインテールでレースやフリルの付いたポンチョのような大きい服の下にスパッツを履いているピンクで赤のリボンとハートの首飾りをつけた少女がマイクを持ちながら言った。

ウィング「見事優勝した者には、全国大会出場権利が授与されまーす！」

ミジュマル「（・・・全国大会か。）」

オーベム研究所

アイアント「オーベム博士、チュリネの様子は」

オーベム「アイツを連れ去って正解だ。何よりアイツは、心が崩壊した玩具でしか無いからなァ」

ウィング「さ～、Ａブロックの対戦相手は・・・初出場、ミジュマル選手ｖｓ去年のベスト８、マラカッチ選手だー！」

審判「バトル開始！」

マラカッチ「フフフ！キミは水タイプ！あたしは草タイプだから、楽勝ね！ミサイル針ー！」

マラカッチは足場に向かってミサイル針を繰り出した

ミジュマル「おっと」

だがミジュマルは回避した。

マラカッチ「や～るね～！じゃ、エナジーボール！」

ミジュマル「ジャンプ～！」

ミジュマルはジャンプした。

だが、

ウィング「ピッチダウン発動！」

ミジュマル「（・・・マズい！このままだと追い風に巻き込まれちゃう！）」

エモンガ「ミジュマル！下を向いて回避するのよ！」

ミジュマル「（エモンガ・・・！）よーし！」

ミジュマルはエナジーボールを回避

マラカッチ「ニードルアームで決めるわ～！」

ミジュマル「（水技は効かない・・・！だったらとっておきの技で！）」

ウィング「どうしたのでしょうかミジュマル！

全く動きません！」

ミジュマル「わあ！よし、今だ～！」

マラカッチ「えッ！？」

ミジュマル「リベンジ～！」

マラカッチ「キャーッ！まったりおいしゅうございましたわ。」

バタン

審判「勝者ミジュマル！」

ウィング「やりましたー！ミジュマル選手ー！
２回戦進出デース！」

マラカッチ「負けたわ。
２回戦も頑張って。」

マラカッチとミジュマルは
握手をした。

エモンガ「（・・・良かった…。）」

チュリネは、立ち止まった

エモンガ「・・・！？」

チュリネ「・・・」

第2話　暗殺宣言！？初戦の行方！（後書き）

次回予告

2回戦進出したミジュマル、その後どんどん勝ち進むのだった。
準決勝、ピカチュウが敵のパワーに倒されてしまって・・・！？
次回「ピカチュウ、大ピンチ！？暗躍する闇！」

第3話　ピカチュウ、大ピンチ！暗躍する闇（前書き）

前回
初戦突破をしたミジュマル
悪の博士、オーベムの企みはどんどん闇に染まって・・・行く！

第3話　ピカチュウ、大ピンチ！暗躍する闇

2日目

～2回戦～

ミジュマル「えい！」

バタフリー「わあ！」

バタフリーはミジュマルのシェルブレードを一撃で喰らった。

～3回戦～

デルビル「俺の炎技が効かないだと～！？」

ミジュマル「喰らえ！ハイドロポンプゥ！」

デルビル「ギャアアアアアア！？」

デルビルは戦闘不能になった。

～準々決勝～

バニリッチ「オー！スキアリデース！こおりのつぶて！」

ミジュマル「（・・・ココはリベンジの体制に入るぞ！）」

バニリッチ「ワオ！動かないなら、トドメさしマース！」

ミジュマル「（・・・今だ！）リベンジィ！」

バニリッチ「ワ～！ドーイターシマシテ～！」

バタン

バニリッチは戦闘不能になった。

審判「勝者ミジュマル！」

ウィング「決まったー！ミジュマル、準決勝進出でーす！」

エモンガ「やったあ！優勝までもう少しだわ！」

オーベム研究所

アイアント「み、短すぎんだろ！（怒）」

～準決勝～

シビシラス「シビシラス、勝つもんね～！」

シビシラスはチャージビームを放った。

ミジュマル「ココはホタチでガード！」

ミジュマルは、ホタチでチャージビームを跳ね返した。

シビシラス「ひゃあ！」

ミジュマル「コレでトドメだ！シェルブレード！」

シビシラス「イヤンッ！」

バタン

審判「勝者ミジュマル！コレにて、Aブロック2日目は終了とする！」

ウィング「ミジュマル、ついにAブロック決勝進出でーす！」

エモンガ「（初出場なのに、決勝までコマを進めただなんて、やっぱり、ミジュマルはスゴい・・・？）」

Bブロック準決勝

ピカチュウ「・・・うぅ・・・」

審判「・・・ッ！勝者、チュリネ・・・！コレにて、Bブロック2日目は終了とするッ！」

ウィング「・・・・！」

→ショックでしゃべれなかった少女であった。

ミジュマル「チュリネ・・・！」

エモンガ「そんな・・・！ピカチュウは昨年度優勝者だって言うの

に・・・！」

オーベム研究所

オーベム「クククッ・・・ヌーハハハ！
コレでピカチュウはおしまいだ！あとは、ソイツを暗殺人形として、
改造してやる！！」

チュリネ「コレで・・・良かった・・・の？」

回想シーン

グレッグル「ウヘヘヘ・・・、コイツ、殺し甲斐があるぜェ！
どくづき！」

チュリネ「わあああ！」

ミジュマル「シェルブレード！」

グレッグル「ぎえええええ！
覚えてろ～！」

グレッグルは逃げ去った。

ミジュマル「大丈夫？」

チュリネ「うん・・・助けてくれて、
ありがとうね。」

ある日

オーベム「フハハ！」

チュリネ「助けてェ！」

ブロロロロ・・・ブーン

オーベムはチュリネを連れ去った…。

回想シーン　終わり

ミジュマル「（チュリネ・・・！必ず、正気に戻してやるからね！）」

「チュリネを正気にする宣言」が、今、始まるのであった。

第3話　ピカチュウ、大ピンチ！暗躍する闇（後書き）

次回予告

決勝戦、ミジュマルとチュリネのぶつかり合い！
でも、攻撃を受けるたびに、チュリネは、オーベムに嫌気をさしてしまう・・・

次回　波乱の決勝戦！闇を消し去れ！（前編）

第４話　波乱の決勝戦！闇を消し去れ！（前編）（前書き）

決勝戦、ミジュマルは
チュリネを正気に戻せるのだろうか・・・

第４話　波乱の決勝戦！闇を消し去れ！（前編）

～決勝戦～

ウィング「さ～！波乱の決勝戦がついに始まりまーす！
ミジュマルＶｓチュリネ！」

エモンガ「（ミジュマル、絶対優勝してね・・・・）」

ミジュマル「シェルブレード！」

チュリネは回避した。

ミジュマル「わわ・・・ッ！」

チュリネ「スキアリ！はっぱカッター！」

ミジュマル「うう！」

ウィング「おーっと！効果バツグンだー！
どうしたミジュマル！いつもよりらしくないぞ！」

ミジュマル「（・・・何としても、チュリネを正気に
戻さなくちゃ…）」

チュリネ「アタシの本来の目的は…
アナタを倒して、暗殺するコトよ！リーフストーム！」

ミジュマル「くそッ！ココは波乗り！」

ドォン！

結果、互角となった。

エモンガ「ああ！」

チュリネ「イヤ・・・暗殺なんて、絶対・・・」

攻撃を喰らう度に
オーベムや暗殺に嫌気をさしてしまうチュリネ

ミジュマル「ハー・・・」

ミジュマルは深呼吸をした。

ダッ！

ミジュマルはシェルブレードの体制に入りながら
ダッシュした。

ミジュマル「シェルブレードォォ！」

チュリネ「キャッ！ああ！」

ウィング「おっと！ミジュマルの連続シェルブレード！
だが効果はいまひとつですね・・・」

チュリネ「博士…この命令には…従え…」

オーベム研究所

オーベム「何！？チュリネのヤツ、俺様に嫌気をさしているだとォ！？」

アイアント「博士！ピカチュウを連れてきました！」

オーベム「おー！ごくろーだったー！！後は洗脳するだけじゃー！」

アイアント「了解！」

ピカチュウ「クッッ！はなせ！」

チュリネ「アナタを暗殺…する…コト…」

回想シーン

チュリネ「わあああああああ！！」

チュリネは、オーベムに洗脳された。
この洗脳マシーンで…。

エモンガ「おかしい、
チュリネを洗脳したヤツは、誰なのかしら…。」

ミジュマル「シェルブレード！」

ザシュッ！

チュリネ「うう…！
アタシは、れっきとした…ポケモ…
わあああ！？」

チュリネは、リーフストームを放ったのだった。

ミジュマル「わあ！？」

バタン！

ウィング「おおっと！
ミジュマル、倒れてしまったー！」

ミジュマル「（このまま、負けて…たまるか…
この大会に優勝して、チュリネを正気に…戻すん…だ…！）」

倒れてしまったミジュマル
果たして、バトル大会に優勝し、チュリネを正気に戻すコトが
出来るのか…続く！

第４話　波乱の決勝戦！闇を消し去れ！（前編）（後書き）

次回予告

倒れてしまったミジュマル！
暗躍する大きな闇の中、げきりゅうで
パワーアップし・・・！

次回「波乱の決勝戦！闇を消し去れ！（後編）」

第5話　波乱の決勝戦！闇を消し去れ！（後編）（前書き）

前回
チュリネの圧倒的な技に敗れてしまうミジュマル
優勝して、チュリネを取り戻すコトができるのだろうか…

第5話　波乱の決勝戦！闇を消し去れ！（後編）

審判「し、勝者…」

ミジュマル「まだ・・・戦えます・・・ッ！」

ミジュマルは立ち上がった

エモンガ「・・・！」

チュリネ「（・・・立ち・・・上がった・・・）」

ミジュマル「僕はこの大会に勝って…キミを
正気に戻して、見せるッッ！」

チュリネ「…うわあああああ！？」

突然、チュリネに
異変が・・・

チュリネ「ソーラービーム！」

チュリネは、太陽の光を浴び、ソーラービームを発射する

ミジュマル「コ、ココは・・・
ホタチでガード！」

ミジュマルはホタチでガードし、
ソーラービームを空に飛ばした。

チュリネ「ウソ！？」

ミジュマル「シェルブレード！！！」

ザシュッ！

チュリネ「きゃああ！」

シェルブレードがグリーンヒットした。

チュリネ「ううう、リーフストーム！！」

ミジュマル「！？おわあああ！」

エモンガ「きゃああ！」

リーフストームが
ミジュマルにヒットした。

ウィング「わああ！リーフストームがミジュマルに当たった！
効果バツグンー！」

チュリネ「アタシね、アナタと一緒にいたコト
忘れたの。だから・・・」

ミジュマル「・・・！」

ミジュマルは、立ち上がった。

ミジュマル「何言ってんだよ。
キミの思い出は、僕が取り戻す！
そして、キミを正気に戻す！なみのり！」

チュリネ「そんな戯れ言、勝ってからにして！
リーフストーム！」

ウィング「また強力な技の
ぶつかり合いだー！」

ドーン！

ミジュマル&チュリネ「わあああ！」

ウィング「またもや両者互角だー！」

ミジュマル「・・・！」

ミジュマルのポイントが少しだけになったのでとくせいの
げきりゅうでパワーアップした。

ミジュマル「コレで、決める！
シェルブレード！」

ザシュッ

チュリネ「キャアアアアアーーー！」

バターン

審判「勝者ミジュマル！」

ミジュマル「やった～～！」

エモンガ「やった！次は全国大会ね！」

ウィング「やりましたー！
ミジュマル、見事全国大会進出でーす！」

オーベム研究所

アイアント「何だってー！？」

ピカチュウ「残念だったな！
１０万ボルトだー！」

ビリビリビリ

アイアント「ギャーーーーー！」

ピカチュウ「今のうちだ！」

ダッ！

ピカチュウは逃げた。

アイアント「なあああああ！」

オーベム「おのれ、この役立たずッ！

失敗には「死」を、じゃーーー！
というワケで、死ねーー！ハカイ光線！」

ドカーン

アイアント「ぎゃあああああああああああッ！
博士…そこを何とか…ッ」

バタン

アイアントは息を引き取る。

バトル大会　スタジアム

チュリネ「（ミジュマルのおかげで、暗殺やオーベム博・・・いや、
オーベムの
コトなんて、忘れちゃったみたい。）」

チュリネはドコかに去った。

またオーベム研究所

オーベム「おお、「壊れた人形じゃないか。」

チュリネ「何とでも言ってください。
アタシは、アナタの言いなりになんか、なりません！」

オーベム「なッッ！」

スタジアムの外

ミジュマル＆エモンガ「あ」

チュリネとバッタリ会った2匹

チュリネ「あのね、アタシ、アナタたちと一緒に
悪の組織を黙らせたい！仲間に、なってくれないかな・・・」

ミジュマル「うん。いいよ。」

エモンガ「ミジュマルが言うなら私もよ。」

チュリネ「みんな、ありがとう・・・」

こうして、ミジュマルは優勝し全国大会出場の切符を手に入れ
チュリネを正気に戻すコトができるのであった。

続く

第5話　波乱の決勝戦！闇を消し去れ！（後編）（後書き）

次回予告

遂に全国大会出場の切符を手に入れたミジュマル
全国の強豪ポケモンが集まる今、オーベムの企みは
また、始まるのだった。

次回「やってきました！全国大会！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9364z/

ポケモン　ハイパーバトル

2012年1月2日08時46分発行